

## 【 2023 年度 終了レポート奨学生の声 】

### 【奨学生 A さん】

一年間、大変お世話になりました。貴財団の奨学金を頂く事が出来た事は、自身の中で非常に大きな自信となり、また大きな心の支えとなりました。昨年の始めに父が病により働けなくなってしまった際には、「これからどうしよう」という不安が大きく勉学に集中出来ない時期もあったのですが、貴財団にご支援を頂く中で「この時間を有意義に過ごさなくては」という強い気持ちが湧くようになり、それにより一年間でこれまで以上に濃厚な学びを行う事が出来たように思います。そして、これまでただ漠然としか考えていなかった学生生活を送れる事への感謝を再認識し、その感謝を還元出来るようこれまで以上に高いモチベーションを持って研究・ピアノの研鑽に取り組む事が出来たと感じております。又、貴財団の御支援は金銭の支えにより自身の生活にも大きなゆとりを与えてくださいました。アルバイトの時間を減らして大学にいる時間を増やす事が出来たり、演奏会に行く機会も多くもつ事ができ、大変嬉しかったです。それにより、無理をせず毎日を健康的に過ごす事が出来たと感じております。これらの経験を忘れる事なく、この一年間貴財団に御支援頂いた事を感謝申し上げますと共に今後の勉学や業務に熱心にも取り組んでまいります。誠にありがとうございました

### 【奨学生 B さん】

奨学金をいただいたことで、仕事を増やさずに済みました。そして、ピアノの実技と授業科目の勉強と教職の両立、更に、音楽教育の研究をすることができ、成績も維持することができました。

大好きな大学を、経済上、通学継続を諦めるしかないのか、と思っていた一昨年でしたが、こうして最後まで通うことができ、卒業までできたことが本当に感謝です。貴会の奨学金をいただけた為に、叶った夢であります。

まだまだ未熟で、これからも多くの挫折もあると思いますが、貴財団の奨学金をいただいた誇りと感謝を胸に秘めて、頑張っ参ります。

ありがとうございました。

### 【奨学生 C さん】

藤澤記念財団様、私を面接して下さった担当者様、事務局の皆様、怨年度一年間大変お世話になりありがとうございました。私にはたくさんのコンサートに出演する有名なピアニストになりたいという大きな夢があります。その夢は簡単なものではないので、学校以外にもいろいろな学びやコンクールの参加が必要なのですが、一回生という大学生活、スタートの時に応援して頂けて思いっきり学び成長することが出来ました。財団の皆様に「あ、我々が応援した子の名前だ」と今後目にして思っただけの活躍が出来るように、二回生以降も精一杯努力することを約束いたします。一年間を終え感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

### 【奨学生 D さん】

今年度1年間、奨学金を給付していただき本当にありがとうございました。昨年度のようにバイトに月80時間注ぎ込むことなく、半分の月40時間ほどで済み、そのおかげで練習時間も勉強時間も多く取れました。身体的疲労も精神的疲労もぐんと減りました。今年度は悩みが尽きない1年でたくさん歌うことについて考えてたくさん苦しんだ1年でした。しかし、この春休みにお声がけいただいて、地元で保育園と老人ホームで演奏する機会がありました。これは私にとって初めて、1人で歌を歌ってお金を貰うという仕事の体験でした。たくさんの小さい園児たちに7曲、20人ほどのおじいさんおばあさんたちに7曲、それぞれ考えて選曲して小道具も作って、とても小さいですが2公演終えることができました。普段緊張で固くなってしまう私ですが、今回は良い緊張感を持って自由に表現することができました、これは初めての感覚でとても良い経験になりました。今回だけでなくこれからの実技試験などでもそのような演奏ができたらと、今回がそれに繋がる大きなヒントになるといいなと思っています。この公演の後、他の保育園2か所からも「話を聞きたいぜひうちでもやっていただきたい」とお声がけいただくことができました。来年の夏休みには3か所の保育園とまた老人ホームで小さな演奏会を開くことができる予定です。もしも藤澤記念財団様から奨学金をいただいでいなければ、今年も春休みは一生懸命バイトをして地元に戻る暇も余裕もなかったと思います。このような機会もいただけていなかったことと思います。ほんとうに感謝の気持ちでいっぱいです。

【奨学生 E さん】

一年間貴財団の奨学生として採用していただいたこと、誠に感謝申し上げます。

私は以前から教員になるという夢を抱いており、叶えるために日々努力してきました。その過程で、もう少し教育に対して勉強してみたい、今後の日本の教育をより良いものにしていきたいという願望が芽生え、教職大学院への進学を視野に入れるようになりました。このように夢を持てること、自分で選択できることは決して当たり前のことではないと感じております。現代社会は大きく発展してはいますが、叶えたい夢があっても経済的事情で諦めざるを得なかったり、そもそも進学すら選択肢の中に含まれていなかったりと、悩みを抱えた児童生徒はまだまだ沢山います。自分の未来は自分で切り拓くしかありませんが、一人では必ず限界があるのもまた事実です。だからこそ貴財団のような、学生に支援を行う取り組みがあることで多くの児童生徒が救われるのではないかと、私も実際に奨学生として生活してきた上で強く実感いたしました。

私自身、教員を目指す立場ではありますが、やがて教育現場から離れた際、このように学生を支援する取り組みを行ってみたいという夢も密かに抱くようになりました。多くの児童生徒が、経済的事情にとらわれず、夢を抱き、叶えるために努力できる環境がこれからも整っていきますよう、貴財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。